

学びは現場で起きている。

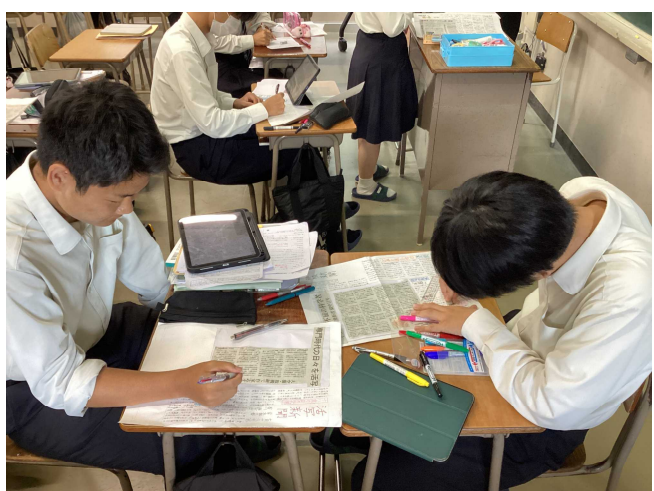
第6号・令和8年 7月17日

【「平和新聞作り」を実施しました(2学年)】



2学年では、1学年で学んだ原爆の実相を出発点として、「平和とはどのような状態なのか」を改めて考える学習に取り組めます。

平和というと、戦争や紛争がない状態を思い浮かべるかもしれませんが。しかし、差別や貧困、虐待、障害のある人や外国にルーツをもつ人など、社会の中で生きづらさを抱える人がいる状態を、本当に平和と呼べるのでしょうか。その視点から、新聞やインターネットニュースを読み、自分が興味をもった社会問題を一つ選びます。



そして、「なぜその問題を調べようと思ったのか」「調べて新たに分かったことは何か」「その問題を解決するために何が必要か」を考え、最後に「自分にとって平和とは何か」という自分なりの主張をまとめます。こうして集めた情報や考えを、A3判の「平和新聞」として形にします。



身近なニュースや社会の課題を手がかりに、自分の問いを見つけ、調べ、考え、伝える。本校が大切にしている「正しいインプットと伝わるアウトプット」の練習です。

この活動は、平和を自分自身の問題として捉え、よりよい社会について考える力を育てることをねらいとして行っています。